

所在:伊那市東春近 田原地区

取組主体: 田原集落農業振興センター

取組開始時期: 平成22年3月～

取組分類: 地域発意型

解消面積: 16ha(平成23～24年)

導入作物: 白ネギ、麦、ブロッコリー、アスパラ、トマ

販売先: JA上伊那

1. 取組のきっかけ・経緯

伊那市田原地区は、天竜川左岸の河岸段丘に位置している。その上段部にはかつて一団の桑園が広がっており、養蚕業が盛んに行われていた。やがて養蚕業は衰退し、それにあわせて農地も荒廃した。下段集落では上段農地の荒廃による土砂災害や、さまざまな悪影響が懸念されるようになっていた。

そうした中、もともと集落内には「みんなでやろう」という気質があり、後世に農業ができる土地を残そうという機運が徐々に高まっていった。すると、地元農家を中心に組織された田原集落農業振興センターにおいて、耕作放棄地解消に向けた取組を行うことを決定し(平成22年3月)同センター内に事業の遂行を中心的に行う下部組織・上段土の会(地元の農事組合法人田原を中核とする11名)を設け、取組方針などの検討を経て、耕作放棄地の解消を図るため基盤整備を開始した(平成23年8月)。

再生前



再生後



2. 取組内容

この大規模再生事業は、まず上段土の会が中心となって地権者や集落住民への説明を行い、地元の理解や協力を得るところから始まった。16ha(220筆)の農地について、農地集積円滑化団体(JA上伊那)を經由して、農事組合法人田原が10年間一括無償で利用権設定をした。再生整備は、業者等への委託等を行わず集落内の農家(重機等の有資格者)が重機を操り、起伏のある農地については課題が出るたびに現場で協議し、また安全面に留意しながら整備を進めた。畑であっても畦畔を作り、雨水の落口を一カ所にし、沈砂地を設置するなど、大雨による土砂流出の防止に注意を払い、家屋の多い下段集落に配慮した。

その後再生した農地には主に白ネギを作付けし、集落内に白ネギ出荷施設を整備して地元住民の雇用を創出するなど、地域経済の活性化につながっている。

また、伊那市と友好提携している新宿区の住民と協力して、再生した農地にサツマイモを定植して芋焼酎をつくるなど、都市住民との交流をとおして地域が元気になるような取組も進めている。

取組主体による導入作物栽培面積	24ha
うち耕作放棄地の再生面積	16ha

3. 販売計画

JA上伊那に100パーセント出荷
(H24実績:白ネギ11ha:4kgケース2万個)

農産物

100%

JA
上
伊
那市場
等

4. 将来構想(今後の展開方針)

白ネギやブロッコリー等の野菜や小麦の生産拡大を図る。その他、土地利用型作物としての大豆の生産、味噌への加工利用を進める。またリンゴや梅などの面積を拡大し、観光農園にも取り組む予定。